

Weekly Report

ウィークリーレポート 2010-2011

尾張中央ロータリークラブ



2010～2011年度国際ロータリーのテーマ



国際ロータリー2010～2011年度
会長 レイ・クリンギンスミス

会長 住川誠一 承認日: 1984年1月30日 事務局: アートスペース ヒラノ2A 〒481-0038 北名古屋市徳重土部56
幹事: 中村隆文 例会日: 毎週水曜日 TEL: 0568(25)4701 FAX: 0568(25)4702
会報委員長: 堀尾明史 例会場: 名鉄グランドホテル URL: <http://www9.ocn.ne.jp/~owari-rc/>

雑誌 月 間

2011年4月13日 第1305回 例会

司会 会場委員長 尾関正美

点 鐘 会長 住川誠一

唱 和 ソングリーダー 野田和正

「それでこそロータリー」

来訪者紹介 副会長 山下隆義

山田 聡子様(公財AFS日本協会尾張支部長)

会長挨拶 会長 住川誠一



例年ですと桜の満開を迎え、花見を大いに楽しんでいらっしゃる時分でございますが、東日本大震災のこともありましてその気にもなれません。私たちも春の家族例会を中止させていただきましたが、浮かれる気分には程遠い気がしております。

大地震、津波、原発の三重苦が、みんなの心の重しになっております。花見の自粛にのみとどまらず、5月の東京の三社祭、浜松祭り等、催事、祭り、旅行などすべての面に及んでおりますが、あくまでも短兵急なことは言えませんが、そのことで消費が鈍れば知らないところで東北の企業が関係して仕事を奪っているかもしれませんので、ますます震災の方々を苦しめることになりかねません。過度な自粛をやめ買い支えることも必要かと思っております。

岩手の酒造会社が、「このままでは経済的な二次被害を受けてしまう」と復興に取り組む地元酒の消費を訴えておられました。花見の自粛もほどほどにということでしょうか。自分の行為が手助けすべき人たちにどのように影響す

本日のお知らせ (4月20日)

地区協議会報告

新旧委員長会議 (13:40 ~)

担当: 会長エレクト、次期幹事
(1306回)

次回のお知らせ (4月27日)

卓話 「ロータリー岡目八目」

中部経済新聞社 編集部
RC担当 伊藤 博様

(1307回)

るのか、少しだけ考える必要があるかもしれません。日本全体がこのような自粛ムードに包まれたら、日本の景気はさらに悪化してそれが復興の足かせになるような気がいたします。これまでの価値観、視点を少し変えなければいけないかもしれませんし、物事を正しく明らかに観る、すなわち「諦め」が必要ではないでしょうか。とはいえ、今までの天国暮らしからレベルを下げるというのは至難のことだと思いますが…。

震災から5日目くらいでしたか、ラジオを聞いておりましたら、仙台のある男性が被災現場に残っておりました、一本のゆずり葉の木(この辺では、あまり見かけませんが、小浜市の明通寺に大木がありますし、日本料理などでときどき葉が使われていることがあります)を見てこの木の名前は「譲り合い」「いたわりあい」「助け合い」につながるのではと思われたようです。この木を見て大いに勇気つけられたとお話しておられました。関連して、こんな歌を紹介したいと思います「世の中は 澄むと濁るの 違いにて 刷毛に毛があり 禿に毛がなし 福に徳あり フグに毒あり」と申します。このように濁点の一つで意味が真反対になります。「ゆずり

葉」が「ゆすり葉」になったら大変です。人に譲ると、人をゆるめるのではまるで反対になります。

同じ類の言葉遊びだと思いました。又「爪に爪なし 瓜に爪あり」も同じ類でしょう。

私は未だ行ったことがありませんが、今日は後程、平岩さんよりインド訪問記を拝見いたします。よろしく願いいたします

酒飲めば いつか心は 春めきて
借金鳥も 鶯の声
杯に 梅の花浮かべ 思ふどち
飲みての後は 散りぬともよし
8-1656

出席報告

委員長 鈴木雅貴

会員数：34名 出席数：26名 出席率：86.6%
第1303回(前々回) 修正出席率：80.0%

〈メイクアップ〉 第1303回分

檜吉君(地区環境)、堀尾君(地区広報)

ニコボックス

副委員長 安藤銃悟

住川君 太田君先日来はお世話になりました。
太田君 今期から高校のPTA会長です。公私とも多忙です。

大野(東)君 法務多忙。

安田君 業務多忙。

山本君 例会欠席のお詫び。

鈴木君 業務多忙。

竹本君 業務多忙。

瀧本君 平岩先生、卓話よろしく。

山下君 例会欠席のおわび。

平岩君 本日はポリオ医療援助の卓話の喜び。

東日本大震災宮城県石巻市支援から息子裕一郎が無事帰宅、山田聡子さんをお迎えして。

安藤君 先週4月6日。夜間例会。和やかに楽しく大いに親睦を深める事が出来ました。関係委員の方々ご苦勞様でした。

安藤君 平岩パスト、卓話拝聴します。

第1305回(本日計)	44,000円
本日迄の累計額	1,542,571円

幹事報告

幹事 中村隆文

1. 地区協議会シャトルバス運行の件
平成23年4月16日(土) 9:00～10:20
地下鉄鶴舞線 浅間町駅 1番出口より
随時運行致します。
2. 北名古屋市環境美化推進委員会開催の件
日時/平成23年4月28日(木) 13:30～
場所/北名古屋市総合体育館1階大小会議室
出席/住川会長
3. 『放射能探知機』援助要請の件
第2530地区大橋ガバナーより、『放射能探知機』援助のお願いが届いております。ご協力を頂けるクラブ様がございましたら、ガバナー事務所までご連絡を頂きますようお願い申し上げます。
4. 米山奨学生・学友合同研修会の件
日時/平成23年6月4日(土)
11:15～15:00(昼食付き)
15:00～有松しぼりまつり自由参加
場所/ホシザキ電機内会議室
(集合11:15 時間厳守)
名鉄名古屋本線「中京競馬場前」
より徒歩10分 無料駐車場あり
参加費/奨学生・学友・ロータリアン
いずれも無料
申込締切日/平成22年5月20日(金)



カウンセラーの委嘱状を受ける住川君

五条川ロータリー桜 4月10日撮影:平岩慎次君



親日的な国・インドでの 国際医療援助活動に参加して

平岩 慎次

私は2011年2月25日からインドへの国際医療援助で、ポリオ(骨髄性小児麻痺)ワクチン接種とこの世界的な撲滅運動に参加しました。

極めて親日的な国家インド

インドは南アジアの面積と世界第2位の11億3千万人の大国で、28の州と6つの連邦直轄領と、デリー首都圏で構成され、主な言語は15を超え紙幣は17の言語が印刷され「インドは国と言うより大陸である」と言われています。日本とインドの関係は、第二次世界大戦中に英国からの独立運動の指導者ボース(杉並区蓮光寺永眠)、ナイル(京都大工学部留学)等がインド国民軍を結成し、日本軍とともに戦いました。1948年の極東国際軍事裁判ではインド代表のパール判事は、「英国や米国が無罪なら、日本も無罪である」として日本無罪論を発表し、1951年国会演説で初代首相ネルーは「日本は(インドに)謝罪が必要なのは、何一つしていない。よってサンフランシスコ講和会議には参加せず、講和条約にも調印しない」と日本の擁護を述べ、その後日印安全保障宣言が締結されました。広島原爆記念日の毎年8月6日に国会が会期中の際は黙祷を捧げ、昭和天皇崩御の際には3日間喪に服したほどで、インドは極めて親日的な国家です。(Wikipedia参照)

ポリオ(骨髄性小児麻痺)の予防接種

インドの感染症は、ポリオを始めデング熱、マラリア、ペスト、チフス、破傷風、髄膜炎、日本脳炎、肝炎、下痢胃腸炎、狂犬病等があります。

ポリオ(骨髄性小児麻痺)は、感染すると身体麻痺の後遺症や呼吸困難などで命さえも奪う伝染病です。アジアやアフリカ、中東の国々では今なお幼児がこの病に冒されています。ポリオは治療法がないのですが、わ

ずか20円(1\$=120円)のワクチンで予防でき、一人の子供を身体麻痺から一生守ることができます。しかしこの20円のワクチンを接種させてあげられない国がたくさんあります。

インドでのポリオ撲滅プログラム

私のロータリークラブでの国際医療援助活動はラオス、ベトナム等で、今回は愛知県下の斎藤・江崎前ガバナール、大西財団ポリオ委員長らメンバー計17名と参加しました。インドへの医療援助は半年前程に決めましたが、昨年のホテル爆破テロや最近の南アジアや中近東のシリア、エジプト等でデモや内戦のため治安が悪化しているので、「数名の警護兵士が同行する」との事で、ずっと緊張していました。

3月25日セントレアから香港、バンコクと乗り継ぎ12時間程でインドデリーに夜到着しました。空港を出たら機関銃を持ったターバンを巻いた髭モジャの兵士の集団が待機していて、不安が現実となりました。ホテルは、テロ防止の金属探知ゲートをくぐり、3人がかりで身体持ち物チェックがあり、これは出国するまで続きました。また町には大きな野犬が群れていて、狂犬病が頭をよぎりました。

一夜明けて朝食はバイキングで、メインには香辛料のきいた5種類程のインドカレーと隣に1cm程の細長いパラパラの米が置かれていました。生野菜等はミネラルウォーターで洗ってあるとの事でしたが、口に入れる勇氣はありませんでした。

食器用アルコールと割り箸を持参しましたが、それだけ注意しても同行の一人は、翌日から下痢症状がひどく日本に帰るまで大変でした。

ロータリークラブの生活教育支援施設

朝食後、1時間程でサウスコスモポリタンロータリークラブが、生活訓練の為に寄贈・支援している生活教育支援施設に訪問しました。途中バスが交差点で停車すると、路上生活の物乞いの人たちが集まりました。山道になり道路が狭くなったのでバスから、インドに多いスズキやトヨタ等の日本車に乗り換えました。車一台ぎりぎり通れるスラム街様の曲がりくねった路地の道に、人を始め牛や豚や犬やあられ異臭で窒息しそうで頭がくらくらしたので、マスクを二重にして呼吸を止め20分ほど上がりました。

小学校の半分くらいの生活教育支援施設は、真中に校庭のような広場があり、周りにブロックの家が6つ程建っていました。最高台にある建設途中のトイレや豚の糞みかから流れ出た黄土色の尿尿の川が、広場の半分ほどプールのように溜まり、その中を沢山の豚やヤギや犬が走り回っていました。それに浸った2台の滑り台で子供たちが遊び、ぬかるんだ横や川下に100個ほどの大きなポリタンクが置かれ、給水用ポンプ車に数十人が集まっていました。

教室は一部屋で低高学年の子供たちが左右に分かれ、目を輝かせながら一生懸命学んでいました。他の部屋には10台のミシンで刺繍やシャツや布カバン等を作り、3台のパソコンで勉強していました。人も動物もごちゃまぜで臭いも衛生環境も凄いなと思っていたら、「ここはまだ(身分制度の)中流地域ですよ。明日はスラム街の中心にあるワクチン接種所まで行きますが、靴を履いてなく服は布切れの様な人ごみの中を30分程歩くので、一塊の集団でいないとはぐれたら大変」との事でした。インドはヒन्दゥー教徒が最も多く、身分制度であるカースト制度の影響は、改善されつつありますが未だに残っており貧困に苦しむ人が多く、結婚はランク別に殆どお見合いだそうです。ただここ30年程前にできた新しいIT関連の職業は、この身分制度に余り影響されないの上級に上られるチャンスがあるそうです。

夕方はタジマハルホテルで、在インド日本大使館の林次席公使を始め、国際ロータリーのインドのパネルジー前会長や各国メンバーや大阪の大谷、青森の関根、群馬の横山、愛知の斎藤・江崎各ガバナーらと勉強会をしました。日本国政府からも205億円のポリオ感染症援助をしているお話もあり、その後懇親会が行われました。

ポリオ(骨髄性小児麻痺)ワクチン接種活動

翌朝、部屋に配られたデリー新聞には「5万5千人の赤いデモ隊が市の中心に終結している」とあり緊張しました。朝食を終えていよいよ出発しましたが、バスの中で急遽行き先の変更の案内があり、緊張感が解かれる半面撲滅、複雑な気持ちになりました。

変更先のワクチン接種所は、市の中心から1時間程の郊外にあり医療施設、ナース学校施設、ボランティアホーム ロータリーメンバーの自宅等5か所(一か所で約250人経口ワクチン投与)を回りました。このワクチン接種活動は、ロータリークラブ、WHO、ユニセフ、インド保健省が一体となって行われました。母親らに抱かれた子供たちに直接ワクチン接種をしたので、現場に立って行動する大切さを再認識しました。

今回インド国内で50万ヶ所でワクチンを投与し、5歳以下の1億7千3百万人の子供たちが死にもいたる怖い感染症から救われました。

1985年、ロータリーポリオ(小児麻痺)撲滅運動スタート

1985年にロータリークラブが中心になって開始されたポリオ(小児麻痺)撲滅運動は、212国122万の会員から成るロータリーの広大なネットワークによって、資金、ボランティア、人脈を結集し世界中に拡がりました。今迄各国で50億米ドルの協力を得て20億人以上の子供たちがワクチンを接種した結果、世界で4か所1606症例迄減少して、昨年インドの発症は1例となりあと一歩となりました。今後この活動へのロータリー財団の財政的支援は、ビル・ゲイツ財団の3億5,500万米ドルを含め世界でポリオ撲滅が証明される

までに、12億米ドル近くと予想されます。もしこれがなければ以後40年間に1,000万人以上の子供が身体障害になると推測されています。

各エリアを回ったので「このように海外から私達が現地へ入る事は邪魔になりませんか?」との問いに、市長やインドのガバナーらは帰国のバスに乗り込まれ「私達の子供たちとインドを救う為にわざわざ遠い日本から援助に下さった事は、感染症との戦いの意識向上に大きく寄与し、インド国民は勇気づけられました。

日本とインドは独立以前から深い絆で結ばれ、皆様の崇高なお心で物心両面の医療援助をして下さり心より感謝します。この温かい友情と御恩を、私達は忘れません」と話されました。こうしてロータリー財団の医療援助は、日本とインドの国際親善にお役に立てたと実感し帰国の途につきました。

ロータリーの医療援助の夢

インドでのポリオの撲滅はあと一歩ですが、まだアジアやアフリカ、中東の国々では残っています。世界では10年前は、主に発展途上国で毎年1070万人の子供たちが、今は年間920万人、毎日3秒に1人の子供が、命を落としています。開発途上国には、伝染病に冒され身体が障害され将来の希望を見出すことのできない子供たちと、その苦境に直面する家族がいます。その多くは感染症でポリオを始めマラリアや肺炎やはしか、下痢症、チフスなど治療可能で防ぐことができる病気です。予防接種、適切な栄養と食料、安全な水、難民の保護、読み書き、基本的な保健医療サービスさえあれば、数百万人もの子供たちの命を救う事が出来ます。「子供達を救うロータリーの夢を実現するためご支援を頂けたら」と思います。

今回のプロジェクトは感染症が世界で4か所しか残っていないインドの地方でしたので、撲滅が終わったら、今度は観光ビザで「素晴らしいインド」をゆったり満喫したいと思います。

最後に2760地区ポリオ委員会を引率、通訳をしていただいた名古屋中部未来ロータリークラブの山田高行君に心から御礼申し上げます。



平岩君のインドでの国際医療援助活動参加の写真はホームページにも掲載しています。